



▲昭和10年代後半から20年代前半ごろのひらかた温泉の全景を描いた絵。
左後方には枚方大橋と淀川が望めます（意賀美神社蔵）。



▲正面のマンションの辺りにひらかた温泉がありました。



▲ひらかた温泉玄関先の田中絹代と三船敏郎（昭和27年）。

銀幕スターも訪れた一大レジャー施設

ひらかた温泉

枚方公園駅東側の坂を登ってすぐの丘にあった「ひらかた温泉」は、旅館や浴場、料亭、カフェ、遊戯場、芝居小屋まで備えた一大レジャー施設でした。周辺の企業や市民が宴会などで利用したほか、枚方パークの大菊人形展が開かれる秋には、各地から多くの観光客が訪れました。「バスでやってきたお客さんが菊人形を見た後、うちで食事をして風呂に入るのが定番でしたね」。経営者だった井上久一さん（81歳）は語ります。ひらかた温泉は、大正時代に設けられた療養所の土地2000坪を井上さんの祖父が購入し、昭和の初めごろにオープンしました。写真を元に描かれた全景図（上図）には、中央に煙突の見える浴場、その左に旅館、右手に芝居小屋を経て映画館となった建物などが描かれ、規模の大きさがよく分かります。

昭和27年、「昭和の大女優」田中絹代と、「世界のミフネ」こと三船敏郎がここを訪れました。枚方パークで溝口健二監督の映画「西鶴一代女」の撮影が行われていたときのことです。シャッターを押したのは、当時まだ学生だった井上さん。「三船さんは『一緒に飲みましょう』と誘ってくれる気さくな人柄。田中さんは背筋をスッと伸ばし、いかにも大女優という風格でした」と懐かしそうに話します。

平成3年、ひらかた温泉は約70年の歴史に幕を閉じ、跡地はマンションや駐車場となりました。

（平成23年1月号）